

4

就学費用保障 保険とは？

(総合生活保険)

プランのご紹介(一例)

プラン内容については、パンフレットと合わせてご確認ください。

一人暮らし	実家から通学	安心プラン	基本プラン
①就学費用保障保険 19W 4年制1年目の保険料		5,220円 (2口の場合) ①2025年4月	-

引受保険会社(幹事): 東京海上日動火災保険株式会社

就学費用保障保険(19W)の保障内容&「おすすめ」ポイント

扶養者が病気やケガで死亡、またはケガで重度後遺障がいを負った結果、学生が扶養されなくなった場合の学資費用をサポート。奨学金受給予定の方も加入できます。

保障内容

どんな時に	どのような費用に対して	いくら保障されるか	加入口数の目安 ^{※2}	年間保険料 ^{※3}
<ul style="list-style-type: none"> 扶養者が病気やケガで死亡した場合 扶養者がケガで重度後遺障がいを負った場合 	学生が実際に負担した 在学に必要な以下の費用 ①授業料、教科書代、施設設備費、 実験・実習費等 ②通学定期代 ③賃貸借契約の賃料、管理費、共益費	1口あたり 年間 25万円を限度 に 卒業予定年まで (ただし、左記②と③は口数によらず合算で年間 10万円まで)	国公立大学:2~3口 (50~75万円/年まで保障) 私立大学:4~5口 (100~125万円/年まで保障)	1口あたり 2,610円 (2029年卒業予定者の1年目の保険料)
学生がケガで 後遺障害を負った場合	ケガによる身体の後遺障害	1事故 10万円まで (後遺障害の程度に応じて決定)		

※2 文部科学省「令和3年私立大学入学者に関する初年度学生納付金平均額(定員1人当たり)の調査結果について」、「国公立大学の授業料等の推移」を基に、授業料のみを考慮した目安です。
 ※3 上記保険料は(主に2029年卒業予定者が)2025年4月1日を始期日として加入する場合の金額です。卒業予定年や加入時期によって保険料が異なる場合がありますので、詳しくはCO・OP学生総合共済パンフレットp.27をご確認ください。

Point 1

大学・学部ごとの授業料に合わせて保障額を柔軟に設計できます。
1口の保障限度額は25万円、最大15口まで加入可

大阪大学の授業料は年間で535,800円、教科書・参考書代は年間平均約4万円となっています。そのため、最大で年間58万円程度の学資費用負担に備えれば安心なので、就学費用保障保険は「2口加入」がおすすめです。

Point 3

通学定期代および一人暮らしの家賃も保障対象です。(口数に関わらず合算で年間10万円限度)

免除された授業料についてはもともと授業料負担がありませんので対象となりませんが、大学の講義に必須である教科書、教材などの購入費用については、1口あたり1年間最高25万円まで、定期代と家賃については口数に関わらず合算で年間最高10万円まで保障されます。したがって、授業料などを免除された学生にとっても役に立つ保険です。

Point 2

授業料や教科書・教材等の学資費用(実費)を卒業予定年まで毎年保障します。

■実際のお支払い事例

- 就学費用保障保険には5口(年間125万円限度)加入
- 1年生の後期に扶養者が病死
- 事故日の翌日以降に負担した2年生以降の授業料満額+αの保障を受けられた

卒業までの保険金総額
3,343,012円



	1年生	2年生	3年生	4年生
授業料	—円	1,070,000円	1,045,000円	1,045,000円
教材費	—円	19,030円	9,152円	—円
定期代	—円	23,760円	54,250円	76,820円
年間合計	—円	1,112,790円	1,108,402円	1,121,820円

詳しくは、こちらのパンフレットP7を確認しましょう



Q 学生総合共済の保障だけでは足りないのですか？

A

学生総合共済では、扶養者の病死に対して50万円が支払われますが、卒業までに必要な学費等をまかなえないケースがあるため、就学費用保障保険にもご加入ください。